

な-く-に-  
宮古二  
(本調子)

1. 昔語らたる 夢やちゃん見りばヨ

しばし慰みん なゆらやしが

2. 共に眺みゆる 人ぬ居ていからやヨ

ぬゆでい照る月に我んね

向かてい泣ちゆが

3. 昔事やしが 肝や今までいんヨ

忘りがたなさや ありが情

1. 昔恋人と語った日のことを夢に見れば

少しの間は慰められるのです

2. 共に眺める人が(どこかに)いるからこそ

昇り照る月に向かって私は泣くのです

3. 昔のことではあってもその心は今も変わりません

忘れられません 愛する思いを

< 解説 >

八重山の「とらばらーま」のように、本来は即興で自分の思いを唄い込みます。唄い手や土地柄によって節回しも唄い方も歌詞も違い、多種多様のナークニーが存在します。本島の中では最も難しい唄の一つです。ミャークニー、マクンニーと発音する場合があります。また「宮古根」とも書くこともあります。

< 本島 >

「老」「中」「六」は余韻に変化をつけて弾きましょう。

「老」「中」…弾いてから押さえたまま下の絃の方へ引っ張り、また戻します。  
「六」…弾いてから押さえたまま指先ひとつ分スライドさせます。

合 老 四 中 工 六 四 合 工 中 尺 老 上 老 四 工 六 四

合 老 上 四 合 四 工 六 四 中 工 四 六 四 七  
 んか あ し かな た 四 工 六 中 あ 工 た あ る 七  
 とむ う し なく が 四 四 六 四 ら あ た あ る う  
 んか あ し なく と 四 四 六 四 や あ ゆ し い が あ

四 七 中 尺 工 六 中(工)尺 合 中 工 尺 中 上  
 いみ や あ ちよん んん 合 中み 工 い 中 上  
 ひと ゆ あ うな てい んん 合 み か あ り 中 い  
 ちむ ち あ あ ま ま あ ま あ でい い

老 四 合 四 老 四 中 工 六 四 合 工 中 尺  
 ば あ 合 四 老 よ 中 お  
 や あ ん 四 よ よ お  
 ん あ ん 老 よ お

老 上 老 四 工 六 四 合 老 上 四 合 四 工 六 四  
 しば あ し な 合 四 工 六 四  
 めゆ あ う し な 合 四 工 六 四  
 わし い り が た

中 工 四 六 四 七 四 七 中 尺 工 六 中(工)尺  
 さ あ に み い ん 七 ん 中 ら 工 や 中(工)尺  
 ち あ ち わ い ん 七 え 中 ゆ あ 六 や 中(工)尺  
 な あ さ わ あ や 七 え あ 中 ンか ら あ な し ち  
 な あ さ わ あ や 七 え あ 中 ンか ら あ な し ち  
 な あ さ わ あ や 七 え あ 中 ンか ら あ な し ち

中 上 老 四 工 六  
 あ あ あ  
 あ あ あ  
 い い い

1. 昔語らたる 夢やちよん見りばヨ しばし慰みん なゆらやしが
2. 共に眺みゆる 人ぬ居ていからやヨ めゆでい照る月に我んね 向かてい泣ちゆが
3. 昔事やしが 肝や今までいんヨ 忘りがたなさや ありが情